

＼かごしまの地域を元気に！／
共生協働の地域社会づくり

宇検村 NPO法人エフエムうけん

コミュニティラジオは 地域住民の心の架け橋



スタジオでは、住民がパーソナリティやゲストとして出演し、活躍しています。

平成22年1月4日、奄美大島の南西部に位置する宇検村で、村の防災行政無線の代わりとなるメディアとして、FMラジオ放送が始まりました。宇検村が施設や放送設備を整備し、NPO法人エフエムうけんが、番組の企画、制作、放送管理を担っています。行政情報や防災情報だけでなく、リクエスト曲の紹介や、住民をゲストに招くなど、独自の番組を放送する「住民総参加型」のラジオ局を目指しています。

「エフエムうけん」のスタッフは、普段は消防署や役場、村内のレストランなどで働いています。開局当初は、ラジオの機材を触ったこともない素人ばかりでしたが、南日本放送や奄美市のNPO法人デイ！が運営する「あまみエフエム」の協力を得てノウハウを学び、日々、住民を主役にした番組制作に励んでいます。

「ラジオ局ができてから、村民同士の共通の話題が増えて、距離が近くなった」と話すのは、村内で商店を営む玉利好文さん。玉利さんが住む芦検集落から一番遠い屋鈍集落までは、車

で約1時間。遠くの住民の話題をラジオが運んでくれるので、普段接することのできない集落の人たちの様子もわかり、以前より身近に感じるようになったそうです。

現在、ボランティアスタッフや番組への出演者は、青壮年層が中心となっていますが、番組を話題に、高齢者と若者の間に会話が生まれるなど、ラジオ番組を通じ、世代を超えた交流が行われています。

これらの取り組みのほか、「エフエムうけん」の重要な役割として、防災情報の提供があります。平成22年10月20日に発生した奄美地方における集中豪雨災害では、番組を「あまみエフエム」による奄美全域の災



ラジオをかけながら商店を切り盛りする玉利さん。店では、お客さんとラジオを聴きながら、話に花を咲かせます。

害情報に切り替えるとともに、村独自の災害情報を随時提供しました。3日間に及んだ停電で、テレビなどから情報が得られない中、ラジオだけを聴いていた住民も多かったそうです。

宇検村の開局準備責任者で、現在も引き続き番組スタッフとして活動している渡博文さんは、住民から「ラジオがあつて心強かった」などの声を聞き、「ラジオが災害時の助けになることを確信できた」と話してくださりました。

「エフエムうけん」は、平成23年1月4日で放送開始から1周年になりますが、初年度に見えてきた、さまざまな課題への取り組みや成果を生かして、現在、若者が主体になって制作している番組に、今後は高齢者や

女性層も取り込んでいきたいと考えています。このほか、村内の各集落から1人ずつスタッフとして参加してもらい、各集落の文化や伝統を取り上げた番組を制作していきたいと、ラジオを通して地域づくりへのさらなる意気込みが感じられます。



理事長の屋宮喜浩さん(左)と開局準備責任者の渡博文さん(右)

代表者からひとこと

村民スタッフで和気あいあいと番組作りに取り組んでいます。今後は、各集落の方々に出演してもらい、集落それぞれの伝統、文化などを紹介していけたらと思っています。また、子どもから高齢者まで、村民全員が出演するラジオを目指します。

共生・協働の地域社会づくりやNPO法人に関するお問い合わせ先

- 共生・協働推進課(県庁9階) TEL.099(286)2241
 - 共生・協働センター(かごしま県民交流センター内) TEL.099(221)6613
- 関連情報は、県ホームページの「共生・協働(NPO・ボランティア)」にも掲載しています。